

準優秀賞

助け合いとは何だろう

真鶴町立真鶴中学校三年

遠藤 優 月

助け合いとは何だろう。私たちは、日常の中で助け合いという言葉を知り、くけれど、その言葉の意味を深く考えたことがある人はそれほど多くないと思います。私もそうです。でも、私は、今回の作文で助け合いについて考え、助け合いとは、実はとても身近に存在しているものだと感じました。

私が最近助け合いを感じたのは、授業です。私のクラスでは、積極的に発言する人が少なく、授業が止まってしまふことがよくあります。授業が止まってしまふことで、さらに手をあげづらくなってしまふし、先生も困っています。そんな時に、手をあげてくれる人がいます。それをスタートにみんなが手をあげ始め、授業も再スタートします。一見これは一人がクラスのみんなを助けていて助け合いではないように思われるかもしれませんが、ですが、私はこれも助け合いの一つであると思います。きっと、互いが互いを助けることが助け合いだと思っている人も多いと思います。私もそれは、助け合いであると思います。ですが、今回の授業の話のように誰かが相手を思い助けることで、その相手が誰かを助けようとする、助けようとする思いが広がっていくことも助け合いだと思っています。

私がこのように思った出来事は他にもあります。それは、ボランティア活動です。ボランティア活動は、自分の誰かのためにといい気持ちから生

まれるものです。私は、一年生るときに町民運動会のボランティアをしたことがあります。自分が競技に出場するわけでもないし、ボランティアをしたからといって、何かもらえるわけでもありません。でも、私は、ボランティアをしてよかった、来年もやろうと思いました。それは、達成感や町に貢献できているという思いからでもあります。私は、町民運動会に参加していた人が楽しそうにしていたところや一生懸命に競技に取り組んでいるところを見ることができたからだと思います。自分たちの助けようや誰かのためにといい気持ちが直接ではないかもしれないけれど、相手に伝わり、そこから生まれた行動や姿がまた私たちの思いを生むものだと思います。それは、広がりとはまた別のものかもしれませぬ。ですが、人を感じる心や気持ちから生まれた行動がまた次の思いや行動に繋がっていくのは、どちらも同じです。私は、この繋がりの思いが生まれるときが一番大切に重要なところだと思います。

助け合いとは、人を思う心から生まれ、繋がっていくものです。だからこそ、私たちは、今自分が助け合っていることに気づきませぬ。どんなに些細な思いでも、行動でもそれは、助け合いの一部だと思います。助け合っていることに気づかず、助け合っている実感がないから助け合いを身近に感じることはないのだと思います。もし、私たちみんながそのことに気づくことができればもっと助け合う思いや行動が増えると思います。私は、これからその事に気づく人が増え、助け合いももっと増えてほしいと思います。